

《風水害から身を守る》

大雨や台風、低気圧や前線、そして竜巻などの突風による風水害は、日本のどこでも発生する可能性のある災害ですが、防災気象情報の入手など、早めの対策を講じることで被害を軽減することが可能です。

そのために、「今できることを準備」し、「いざという時にやるべきことをイメージ」しておくことが大切です。

【日頃の備え】

- 避難場所、避難経路を確認
- 非常持ち出し品の点検

【防災気象情報で早めの対策】

- 最新の気象情報をチェック
- 大雨警報や洪水警報が発表されたら避難準備
- 非難は状況に即して判断・行動

【危険が迫る前に早めに避難】

- 浸水の中の避難は非常に危険
- 大雨、強風、水深がひざ上までであるなど、無理に避難するよりも、2階など高いところにとどまる方が安全な場合もある

避難勧告、避難指示等の避難に関する情報は、市町村から発表されます。しかし、すぐにその情報が手元に届かない場合もあります。発表される大雨情報、水位情報だけではなく、周辺の状況にも注意して、自主的な早めの避難を心がけましょう。

警戒レベル	状況	とるべき避難行動等	避難情報 (豊田市が発令)	参考となる 気象情報の例 (気象庁や愛知県が発表)
警戒レベル 5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全の確保！	緊急安全確保	大雨特別警報 氾濫発生情報 など
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~				
<b>警戒レベル 4</b>	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難しましょう	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 など
<b>警戒レベル 3</b>	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難しま しょう	高齢者等避難	洪水警報 氾濫警戒情報 など
<b>警戒レベル 2</b>	気象状況 悪化	自らの避難行動を確認 しましょう	発令なし	大雨注意報 洪水注意報 など
<b>警戒レベル 1</b>	今後気象状況 悪化おそれ	災害への心構えを高め ましょう	発令なし	早期注意情報